

日本鍼灸に関する東京宣言

—21世紀における日本および世界のよりよい医療に貢献するために—

明治国際医療大学 鍼灸学部 矢野 忠

我国における鍼灸の歴史は長く、中国から伝来して1450年が過ぎようとしている。この間、多くの先達によって中国の鍼灸は日本人に適合するように改良・改変され、日本医学の一分野として絶えることなく伝承されてきた。まさしく我国にある鍼灸は、日本の伝統医学そのものである。

我国の鍼灸は、江戸期までは日本の正統医学として漢方と共に国民保健を担ってきたが、明治という近代を迎えてからは医療の枠外に置かれた。そのことにより戦後に施行された医療保険制度からも排除され、今に至るも医業と医業類似行為の間を彷徨い続けていることを余儀なくさせられている。残念ながら鍼灸の法的な位置づけは、未だ曖昧のままである。

こうした我国の特殊事情とは異なり、隣国の中国、韓国では、近年、国の伝統医学として中医学、韓医学を医療制度の中に組み込み、現代西洋医学と共に正統医学として機能させている。さらにそれらの医学を国の文化的遺産として、また知的財産として世界に向けて発信している。いわば伝統医学を国の identity として戦略的に利活用しているのである。

このことと比べて我国の鍼灸は、前述したように厳しい状況下に置かれたままである。しかし、そのような状況下においても、悠久の歴史を有する我国の鍼灸は、今もなお世界に誇れる多くの優れた特質を持っている。それは何かと言えば、日本人の心性(メンタリティー)と思考、そして積極的に異文化を吸収しようとする精神により創り上げてきた多様性に富んだ鍼灸である。その多様性は、診察から鍼灸手技、鍼灸用具に至るまで貫かれており、移り変わる時代と共に他の知見を積極的に吸収しながら進化してきた。こうした日本鍼灸の特質とダイナミズムは、21世紀に相応しく、伝統医学の独自性を内包しながらも様々な医療と補完、統合する力を内包しているだけに世界に向けて発信することは重要である。

昨今、隣国が鍼灸のグローバル化を目指し、標準化を図ろうとする中、また先進国における統合医療の動向を鑑みるに、今、日本鍼灸とは何かを問い、日本鍼灸の特質を明確化し、国内外に発信することは、21世紀における日本および世界のよりよい医療に貢献することに繋がるものであると確信し、それらを「東京宣言」(草案)として掲げることとした。そして「東京宣言」を道標とし、日本鍼灸が進むべき方向を展望することで、さらなる発展を期すことを願っている。そして、本大会に掲げる「東京宣言(草案)」を我国において鍼灸に関わるすべての人々が共有し、高らかに謳うことにより、日本鍼灸を日本の医療、文化の identity となし、誇りにすることを望むものである。

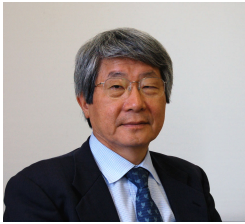
東京宣言を起草するうえで、日本鍼灸の歴史的な展開を江戸期までと明治以降とに分けて俯瞰し、日本鍼灸の特質を探ると共に現代の我国の鍼灸を形作ってきた教育制度、研究の系譜についても併せて見つめ直し、その特性と問題点を探ることとした。加えて、これらの知見を踏まえてこれからの我国の鍼灸の進むべき方向と将来のかたちを展望する。

なお、それらについては教育講演およびシンポジウムで発表されるが、本講演は、それらの

要点を総合的にまとめ、東京宣言の基盤となる視点と概要について発表を行うものである。

本大会で宣言される「東京宣言」の内容は、時代によって変わるものであり、決して固定化されるものではない。それは鍼灸自体が、これまでの歴史の中でそうであったように、これからも未来に向けて進化・発展するエネルギーを内蔵しているからである。

■矢野 忠（やの ただし）



明治国際医療大学鍼灸学部健康・予防鍼灸学教室

略 歴

- 1970年 東京教育大学教育学部附属理療科教員養成施設卒業
- 1972年 東京教育大学（現筑波大学）附属盲学校文部教官教諭
- 1983年 明治鍼灸大学鍼灸学部鍼灸学科 東洋医学教室講師
- 1985年 同校 助教授
- 1986年 同校 教 授
- 1987年 明治鍼灸大学大学院 教 授
- 現在 明治国際医療大学(旧明治鍼灸大学)鍼灸学部鍼灸学科
健康・予防鍼灸学教室 教授
同校大学院 教 授
医学博士・鍼灸学部長・大学院研究科長

主な学会活動

- 日本温泉気候物理医学会
- 日本東洋医学会
- 日本自律神経学会
- 日本統合医療学会 など

主な研究分野

- 内科系・婦人科系疾患に対する鍼灸臨床
- 鍼灸刺激が神経機能に及ぼす効果に関する研究
- 健康維持増進・未病医療に関する研究